

パナマの「大平通り」

永野 重雄

大平さんのお付き合いは大平さんが池田蔵相の秘書官をしておられた頃からだから、もう三十年近くにもなる。大平さんが池田内閣の官房長官になられてからも、当時箱根にあった富士製鉄の寮や私の別荘で、池田さんを交えてよくマージャンやゴルフをしたものである。その頃ゴルフを始めたばかりの大平さんが爽快な大振りであつて続けにOBを出した姿を今でも良く憶えている。大平さんから色紙をいただいたのもその頃、同じ箱根の寮でのことであつた。「千島のおくも、おきなわも、やしまのうちの、まもりなり。いたらんくに、いさをしく、つとめよ、わがせ、つつがなく」。小学校国定唱歌集にある「蛍の光」の四番で、北方領土返還への願いをこめて私が歌つたところ、大平さんがそれを聞いて早速色紙に書いて下さつた。今でも私の家の額に飾つて大切にしている。

大平さんの、お役に立つことができ、私も面目をほどこすことができたのが、戦後第一回の生存者叙勲の新制度発足の時である。電力の鬼といわれた松永安左工門さんが推薦対象の第一番手にあげられたわけだが、松永さんは一向に履歴書を出されない。定例的に松永さんにおいていただいていたある会で、池田総理、賀屋さん、大平さんと私とで松永さんの説得に努めたが、人間が人間の値打ちを決めるようなばかげたことはあり得ないといつて、がんとして聞き容れない。ついに池田総理もかんしゃくを起こしてしまった。これをみていた大平さんが私を別室に呼んで、「ああなつたら、今日この席ではもうだめだ。あなたが近いうちに松永翁のところへいって

強談判するしか手がないぞ」といわれる。そこでその週末、私は家内と一緒に小田原の松永邸へ行って再度説得やつと応諾を得た。この時は大平さんに「これで勲章制度が発足できる」と大層喜んでいただけただけのものである。

大平さんは誠に人情味あふれる、暖かさのにじみ出るようなお人柄で、総理になられてからも高ぶることなく、人の話によく耳を傾けておられた。若い人達から推されて宏池会を引き受けられたのも、大平さんのあのこ人徳あらばこそであろう。昨年五月、私がオーストラリアから勲章をもらい、皆さんでお祝いの会を催して下さった時、大平総理もその会に出席して下さり、祝辞の中で「君は忙しすぎるから健康に留意せよ」としきりに注意して下さった。その直後に当の大平さんご自身が入院され、急逝されようとは全く予想のできないことであつたが、あの頃すでにご自身の健康に心中不安を感じておられたのではなからうかと、あとになって皆で話しあつた。

私どもに関係する大平総理の最後のお仕事となつたのは、新パナマ運河建設についてである。これは今よりも大きな船が通れる運河を作れば、アメリカにとつてもパナマにとつても利益が大きいし、日本にとつても低運賃によつて物価の低下を図れ、日本が資金面の面倒を見れば日米貿易のアンバランスの是正にもなるというので、以前から私がアメリカやパナマといろいろ話し合つていたものである。しかし、こういうことは国として正式にやらないと前進しないので、私から大平総理にお話ししたところ、良く分かつた、やろつ、といつことになつた。このように新計画を日本が国として取り上げたことをパナマは非常に高く評価し、パナマ市の繁華街を「大平通り」と名付け、大平さんの銅像を建てたいと希望してきた。「大平通り」の命名式と、鈴木総理自ら幹旋された香川県出身の高名な彫刻家、矢野秀徳さん制作による銅像の除幕式は今年の四月にパナマで行われる。これも大平さんのご功績、お人柄をしのんでのことなのは申すまでもない。大平さんのお付き合いは家族ぐるみのものであつただけに、大平さんなき今、ただただ淋しさを抑え切れない。

(新日本製鐵名譽会長)